

## 平成27年度 北九州市地方独立行政法人評価委員会（第4回）議事要旨

- 1 開催日時：平成27年8月7日（金） 14：30～16：30
- 2 開催場所：北九州市役所5階 特別会議室A
- 3 議事内容
  - (1) 平成26年度財務諸表及び剰余金の繰越に係る意見書の決定  
意見書案のとおり決定
  - (2) 平成26年度実績にかかる評価案の最終確認  
評価調書の決定
  - (3) 平成27年度計画について  
大学から平成27年度計画を説明。
  - (4) 大学との意見交換
    - ア 戦略的な入試広報による優秀な人材の確保について（No. 14）  
（委員）18歳人口の減少、国立大学の改革の加速等環境が大きく変化している中で、一般選抜の実質倍率を目標値としているが、この目標の設定方法について検討していくべきではないか。  
（学長）第二期中期目標策定時は、数値目標を立てるとというのが一つの基準であり、策定する前年度を下回るような目標は如何かというところから設定したという経緯がある。情勢の変化や大学が目指す設置目的を含めてどういう風に考えるかということが重要だと考えている。学士課程に関しては、高大連携、結果としての入試倍率ということがでてくるが、情勢の変化等も考慮しながら数値目標の設定の有無についても検討していく。
    - イ 大学院の定員充足率について（No. 27）  
（委員）大学院としての性質を明確にして、北九州の地で求められている大学院教育は何かといったことも考えていくべきではないか。  
（学長）現在の定員の中で、少し方針・システム自体を変えながら対応していきたい。学部から大学院にどう連結させるかという大きな課題に対して、学部における責任体制を明確にするため、平成27年度から全学部長に専攻長を兼務する形にした。大学院を社会人教育の一つの受け皿としても考え、地域に対応した形での大学院のあり方（連携大学院や共同大学院といった構想や1年間での卒業等）も念頭に置き、第三期に向けた大きな改革のテーマとして認識している。

ウ 大学運営の長期的な展望について（管理運営分野）

（委員）大学運営の長期的な展望を明確にし、将来ビジョンを確立していただきたい。

（学長）中期計画や認証評価等のタイミングや設置団体である市の基本計画の見直しを考慮すると、大学独自でできる部分とそうでない部分があり、設置者の方向性を加味しながら長期ビジョンをどこまで策定できるか、これからの課題である。

エ 地域人材の養成について（No. 6）

（委員）地域創生力のアセスメントが学生自身の認識の中であまり反映されていない項目になっているので、次のモチベーションにつなげていくためにも学生の実感をうまく反映できるような項目に変更していただく必要があるのではないか。

（学長）本来的に実態を表すような形でのアセスメントを考えていきたい。

オ 収入財源の確保・多様化（No. 57）

（委員）市からの運営交付金の減少傾向、授業料も横ばいの傾向が続くことが予想される。これからは独自の財源というのが重要だと思うが、収入源の多様化についてはどのように考えているか。

（学長）運営交付金についても引き続き設置団体である市と協議を行っていく必要がある、外部資金の調達や産業化・企業化も含めてやっていく必要があると考え、絶えず財源の部分に関しては努力をするとともに、市や総務省に対しても法的な制限について、議論していく必要がある。

（ア）外部資金の獲得について

（委員）外部資金の獲得については、科学研究費補助金は文系教員も毎年度出す必要があるのではないか。その次に他の国の色々な目的別の基金を取り、更には産業界と連携を行うことで大学院生の就職口や、新たな研究費による研究設備が整い、学生たちにも魅力的な大学になっていき大学院教育と産学連携がよい循環になると思われる。こういったことも考えてみては如何か。

（大学副学長）外部資金の獲得は今後も積極的に行っていく。地元企業との連携は、現段階では学生の地元企業へのインターンシップという形で行っている。成功例を増やし、地元企業との連携、共同研究、最終的には外部資金の獲得につなげていきたい。

（学長）3年前に立ち上げた環境技術研究所に専任教員を配置し、産学連携及び外部資金についても積極的に行っていく。また、文系教員の科学研究費補助金の申請については、研究特性に応じた対応を考えていきたい。

カ 財務運営について（目的積立金の予算額と決算額の乖離について）

（委員）目的積立金の取り崩し額を3億円予算計上していたが、実際は1億円弱になっている。平成26年度計画で考えていた教育・研究が縮小されたのか。予算の立て方自体に問題があったのではないか。

（大学事務局）縮小・抑制はしておらず、目的積立金を取り崩して行う予定だった事業についても、実施している。予算と決算との乖離については、ご指摘のとおり問題があると考え、今後は少しでも乖離が小さくなるよう努力していく。

キ 優秀な学生の確保について

（委員）成績優秀者の表彰制度の具体的な方法をご教示いただきたい。

（学長）一般選抜入試成績の上位者に対して入学金を減額する制度に加え、今年度の入学者から成績優秀者（上位何パーセント）の学生に奨学金を与える形である。

ク ICTの活用について（No. 67）

（委員）今後5～10年でICTをベースとした教育基盤を持っている大学とそうでない大学との間で、極めて大きな競争力の差が出るのが予測されている。学生に与えるIDのシステムとそのバックデータ、eポートフォリオとの連携がスムーズに行くようかなり先を見た投資をしておく必要がある。

（学長）大学の身の丈にあったシステム、将来的な汎用性というものにも対応できる形での動き、教育形態の変化等を含めた形での開発をする必要があると感じている。

（委員）メンテナンスも含めた形で、1大学でつくったものを複数大学で共有する仕組みも考えている。今までは研究目的のネットワークであったものを教育あるいは業務改善に使うという姿勢を明確に打ち出していることで、そういった協議会に参加することを勧める。

ケ 国際交流について（No. 47～49）

（委員）国際交流施設を充実させることでの今後の国際交流の方向性について考えを伺いたい。

（学長）本学は東アジアの連携校が非常に多くなってきており、この連携を活かし「本学にいれば日本だけではなくアジアのことも学べる」といった一つの拠点化といった役割もある。また、実際に大学に勤めている博士号を持っていない教員等が博士号を取りに来ることで、国際交流の一つのベースになる。こういった役割において、他大学との差別化をしていく。

（5）第三期中期目標・中期計画策定に係る評価委員会の開催について  
スケジュール等の確認